
男女共同参画推進企画ランチョンワークショップ

[GE1] To be PI or non PI, that should be a question

委員長 挨拶：二木 史朗（京都大学化学研究所），パネラー紹介：白壁 恭子（立命館大学）

2022年11月11日(金) 12:10 ~ 13:00 第2会場(141+142)

主催：日本生化学会男女共同参画推進委員会

男女共同参画社会とは「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、ともに責任を担うべき社会」であると男女共同参画社会基本法に定義されています。この定義には考えさせられる点が多く含まれています。まず「自らの意思によって」：あらゆる場面で「男女の割合」の高低が議論されますが、その割合は社会が決めるものではなく、本来各個人の「意思」によって自然と定まるべきなのではないでしょうか。もう一つは「ともに責任を担うべき社会」：研究者が責任を担うということはどのようなことでしょうか？「PI（principle investigator）になる」ことだと考える方もおられるかもしれません。今ワークショップを企画するにあたり、女性PI数人に率直な意見を聞いてみましたが「安易に女性研究者にPIを勧められない」と言う方が何人かいらっしゃいました。子育てや介護など、背負うものが大きすぎるというのがその理由です。そして解決策の一つとして、non PIとして継続的に（＝任期なしで）研究に関われる仕組みがあれば、柔軟に働けるのではという意見もありました。確かに「non PIとして継続的に研究に関われる仕組み」というのは、女性だけでなく男性研究者にとっても働きやすく、望ましい仕組みかもしれません。ただその一方で、non PIで継続的に働けてしまうと、本来PIとして活躍できる人材がPIを目指さないという弊害も生まれるかもしれません。これらを踏まえて本ワークショップは、「non PIとして継続的に働ける仕組み」と「PIとしてチャレンジする魅力」を話題として取り上げ、フランクに意見交換したいと考えています。女性、男性研究者を含めた様々な立場の方が参加され、男女共同参画社会のみならず今後の日本の科学研究をどう発展させていくかについて、改めて考える場になれば大変うれしく思います。お弁当（無料!）を楽しみつつ、一緒にディスカッションしてみませんか？男性研究者の方のご参加もお待ちしております。

[GE1-1] To be PI or non PI, that should be a question

○北爪しのぶ¹, 木村 洋子²（¹福島県立医科大学, ²静岡大学）

12:10 ~ 13:00